インテリジェントヘルスケア株式会社
リハビリテーション部

退院後から身体の動かしにくさを自覚した症例

～家の事を再び出来るようになるために～

利用者情報　80 歳代　男性　病名：脳梗塞（右半身麻痺）

経緯

発症前：日常生活や家事は自立。妻の介護や書類整理なども行っていた。

退院後：言葉の出にくさ、言い間違え、聞き取り困難を自覚。電話やメールもできず精神的に落ち込んでいた。家事は妻が行い、自身の生活動作にも介助を要する状態。

希望

本人 … 右手、腕、脚が動くようになってほしい。家の事もできるようになりたい。

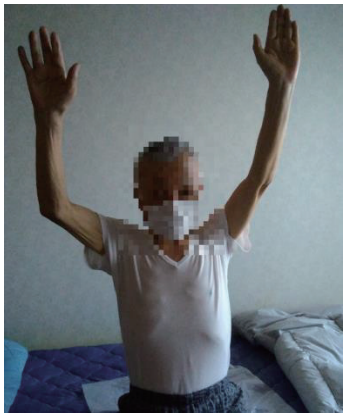
目標

目標：屋内生活動作の再獲得

介入初期

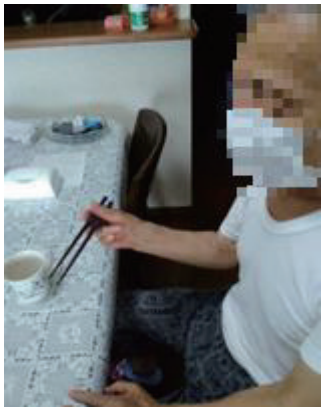
食事や入浴、移動については、時間を要しながらなんとか遂行可能な状態。右上下肢が思ったように動かず、食べ物や飲み物を溢す、重い物を持てないなど、失敗することも多かった。

両肩の挙上運動



肩関節挙上	
初期	100 度
目標	120 度

箸動作



お箸を持つ事はできるが、細かいものが掴めない

新たな課題に挑戦する意欲が低くなっており、『もうこれでいいんです』のようなネガティブな発言を認めていた。『できない』を自覚することで、精神的な落ち込みも認めた。

2022 年 11 月現在

現在

改善!

両上肢の挙上範囲は拡大。運動もスムーズになった。
箸操作では、ペットボトルのキャップや 1cm 程度のラムネまで把持できるようになった。

両肩の挙上運動

肩関節挙上

初期	100 度
目標	120 度
現在	125 度

箸動作

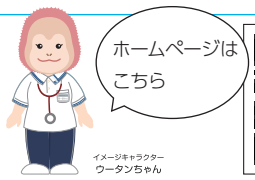
お箸操作
ペットボトルのキャップやラムネの持ち上げ可能

布団の片付け
時間は要するが可能

手足が動くようになってきた、上布団を上げれるようになった、などできるようになったことの話を笑顔でされることが増えました。介入直後のように新たな目標を拒否する様子は認め無くなり、「〇〇をできるようにならないとね」など次の希望を言われる機会が増えました。

【まとめ】
リハビリ病院から自宅退院し日常生活に戻ることで疲労や誤用（身体の間違った使い方）を繰り返し、身体が思ったように動かなくなった症例です。このような症状を呈される方は一定数おられますが、この方はご家族の介護もされており、早急な機能改善を必要としました。体力的にはまだ不十分ですが、休憩を挟みながら自宅生活が遂行できるようになりました。
できることが増えるたびに次の目標を見付け、今でも努力を継続されています。上肢の運動は自立で可能になったため、今後は活動範囲を広げるために 屋外歩行に焦点を充ててリハビリ介入継続致します。

インテリジェントヘルスケア株式会社
https://www.nursing-hc.co.jp/
〒530-0047　大阪府大阪市北区西天満４丁目11－23　満電ビル３階
Tel 06-6312-5000（代表）　Fax 06-6312-5099



2022 年 11 月現在